

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070501152
法人名	特定非営利活動法人 虹の会
事業所名	グループホームいそねの里
所在地	福岡県北九州市小倉南区中曽根東二丁目16番36号 (電話) 093-475-5583

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年9月15日	評価確定日	平成19年9月26日

【情報提供票より】 (平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成19年9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 木村内科外科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

通所介護事業を皮切りに介護保険事業を開始し、次第に在宅継続が困難になってくる利用者に対応するために通所に泊まりの機能を加え、グループホームを開設した。さらに利用者のニーズに応え、1ユニット増床している。平成14年開設後、次第に重度化し、現在はADLの介助を要する利用者も多くなっており、ほとんどの利用者が入浴に2名の職員の介助を要する状態である。看取りも積極的に行っており、状態に応じたきめ細かいケアができています。介助量が多い状況ではあるが、職員はスムーズかつ適切に支援を行っており、静かに過ごせる環境が整えられている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、全職員で協議し、危険物の管理方法や家族への行事開催のお知らせ、理念の見直し等、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者や各ユニットリーダーのみで取り組んでいる。全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して取り組んでほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催している。地域包括支援センターの職員、利用者、家族代表、地域の代表者が参加し、状況や活動内容の報告を行い、委員会メンバーが事業所の行事に参加する機会を作り、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族交流会を開催し、家族との親睦を深めている。日常的には家族の来訪時に職員が声をかけ、意見等を聴き出すよう努め、苦情受付者の氏名を明確に伝えている。事業所便りで写真を利用する際は個人情報に配慮する等、家族の要望を運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の町会や自治会に加入している。地域行事への参加や学生ボランティアの受入れ、学校・保育園との交流等、積極的に地元の人々と交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で協議して事業所独自の理念をつくりあげ、利用者のケアに努めているが、地域密着型サービスの視点が加わっていない。	○	これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各ユニットに掲示し、利用者、家族、地域と接するときの基本として、実践に向けて日々取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町会や自治会に加入している。地域行事への参加や学生ボランティアの受入れ、学校・保育園との交流等、積極的に地元の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者や各ユニットリーダーのみで取り組んでいる。前回評価での改善課題について、全職員で協議し、危険物の管理方法や家族への行事開催のお知らせ、理念の見直し等、具体的な改善に取り組んでいる。	○	自己評価については、全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行っている。地域包括支援センターの職員、利用者、家族代表、地域の代表者が参加し、状況や活動内容の報告を行い、委員会メンバーが事業所の行事に参加する機会を作る等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣の事業所と勉強会を行う際に、講師として地域包括支援センターの職員を招聘する等して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護を活用している利用者を支援している。しかし、制度に関して、全職員で研修等を行っていない。	○	制度に関する研修の機会を持ち、利用者や家族への情報提供ができるようパンフレット等を準備して、全職員の制度への理解を深めてほしい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りを発行し、職員からの状態報告の手紙を添えて家族へ渡している。また、緊急時等は電話で報告を行っている。金銭管理については預かり金はなく、全て立て替えで行い、請求書を渡す際に明細と領収書を渡している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会を開催し、家族との親睦を深めている。日常的には家族の来訪時に職員が声をかけ、意見等を聴き出すよう努め、苦情受付者の氏名を明確に伝えている。事業所便りで写真を利用する際は個人情報に配慮する等、家族の要望を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間で職員の異動等は最小限にしている。また、日常的にユニット間で交流を図ることで、馴染みの関係を作り、職員交代のダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用に関しては、性別や年齢等により採用対象から外したり、労働条件に差をつけることはない。また、研修の機会を作るとともに、親睦会を実施してストレスマネジメントを行っている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>近隣の事業所と協働して、人権に関する勉強会を基本的に全職員出席で実施している。また、会議で勉強会の報告をし、資料は職員がいつでも閲覧できるところに保管している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の教育計画を立てたり、職員が自主的に計画を立て、勉強会、研修会を実施している。また、地域の事業所と協働して、合同勉強会を開催している。会議で勉強会等の報告をし、外部研修の記録等は閲覧できるようにしている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協議会、全国グループホームネットに加入している。また、近隣の事業所と合同で勉強会等を実施し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>面接や体験入所、見学を受け入れている。入所直後の不慣れな間は職員の関わる時間を増やし、家族等から情報収集を密に行い、場の雰囲気に馴染めるよう支援している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家事や趣味の創作等を支援し、活躍できる場面づくりをしている。職員が利用者から教えられる場面では、感謝やねぎらいの言葉かけをしている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言葉だけではなく、表情等からも利用者の思いや意向を汲み取るよう努めている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当職員が中心となり、全職員で情報を集約してカンファレンスを実施している。家族、本人の意向を聴取し、また、カンファレンスに参加してもらって、意見を介護計画に反映している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて介護計画を見直し、緊急時には家族へ電話で伝えている。毎日の記録に、詳細な実施記録がある。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入院時は主治医や家族、本人と話し合い、病院等でのリハビリプログラムを生活の中で可能なものに変える等して、早期退院に向けて取り組んでいる。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力を得ながら、希望するかかりつけ医での受診を支援し、また事業所の協力医療機関での往診も支援している。受診に家族が付き添う場合は、診療結果について家族から報告を受けている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの対応指針を整備している。入所時に家族等の意見を聴き、十分説明を行っている。主治医、管理者、職員、家族が話し合いを重ねて方針の説明を行い、家族の意向の確認を繰り返し行って、全員で方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族等から個人情報の利用に関して同意書をとる際、職員にも個人情報について説明し、ミーティング等でも確認している。日常の介護の場面でも、声かけの際等、プライバシーに配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活のリズムを整えつつ、個々の希望や意向を尊重し、起床や就寝、その他の活動も個別に対応している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事や片付けを行っている。職員は食事の際は介助も行き、食事が楽しみなものになるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間は決まっているが、希望があれば、毎日入浴出来るように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字、家事、工作等で活躍できる場面を作りながら、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調に応じて、週1～2回の散歩や買い物を支援している。また、年間行事計画で花見や遠方へのドライブ、外食等、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠はしていない。玄関チャイムはあるが、職員は利用者の外出傾向を把握しており、見守りで安全確保に努めている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。消防計画に基づいて、消防署の協力を得て、年間2～3回避難訓練を実施している。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品の準備をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて調理方法を工夫している。食事摂取量は個別の記録があり、水分摂取量については、管理が必要な利用者のみ記録がある。献立は、利用者の嗜好を考慮して月1回の職員会議で職員が作成している。	○	最低年1回は、栄養士等による専門的アドバイスやチェックを受け、水分摂取量についても全利用者分を記録し、利用者の健康管理に努めてほしい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光用の吹き抜けがあるため室内は明るく、スペースを活かして椅子の向きを変える等して居場所の確保に努めている。職員の話し声も適切で穏やかであり、くつろげる雰囲気作りがなされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、調度品、家族の写真、仏壇等を持ち込み、個性的で本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。